

第 24 号 インドネシアからお客さんが VVK にやって来た！

～ 千客万来 VVK 事務所の 8 月～

(2006 年 8 月 28 日発行)

8 月 1 日から 14 日まで、JICA 技術協力プロジェクト「市民社会の参加によるコミュニティ開発」(通称 PKPM: ペーカーペーエム)から 3 名のインドネシアの方が、第 3 国技術交換研修でビシャカパトナムを訪れた。ソムニードではお馴染みの水戸黄門様(1)が 2004 年から JICA 短期専門家として、インドネシアを訪れ、PKPM 事業で、テーマ別のコミュニティ開発の研修を何度も実施してきた。

今回、インドネシアからビシャカパトナムにやってきた明日春さん、恵理座部素さん、餡我さん(2)の 3 人は、これまで 2 年間、黄門様の厳しいトレーニングを耐えてきた強者。

2 年間の研修成果を、VVK のオバチャンやソムニードのスタッフに仕返しを、いや技術交換をするために、はるばるインドにやって来たのだった。

プロマネ(3)も JICA-PKPM 事業のお仕事で、7 月にインドネシア出張があり、彼ら 3 人にも会ってきたばかり。インドネシアで、しっかり「インドでの「イエス」は首を左右に素早く振ること」などの指導をしてきたのだった。

首を左右にフリフリしながら、笑顔でビシャカパトナムに到着した 3 人は、いきなり大雨 & 大洪水に見舞われ、彼らが到着した翌日から連続 4 日間、大雨で空港沈没。もう途中でインドが嫌になっても帰る飛行機(飛行場)は当分なし、という状況に追い込まれた明日春、恵理座部素、餡我の 3 名。

2 週間におよぶ研修は、ソムニードと PKPM でそれぞれ事業の担当者が活動紹介をすることからスタート。その後、このインド技術交換研修のメイン・イベントである「PKPM の 3 名によるソムニード新人スタッフへの「コミュニティ開発基礎研修」、その後、皆さんお馴染みの PCUR - LINK 事業の VVK オバチャンたちとの対決。という開発業界の用語で例えれば、グラタン、すき焼き、寿司、うなぎ、カレーといった盛りだくさんメニューの 2 週間の技術交換研修だった。

アシスタント・プロマネ(4)が、PCUR - LINK 事業の活動紹介をした初日。明日春、恵理座部素、餡我の 3 人のギアはいきなり 5 速に入ってしまった。

アシスタント・プロマネ:「・・・というわけで、プロジェクト開始後、1 年半近くは、SHG の内部資金運用や帳簿づけなどを通じた個別の SHG の運営能力の向上を目指し、その後、複数の SHG による連合体という組織の運営へと活動は。。。」

恵理座部素:「エーっと、ちょっと聞いていいかしら？」

アシスタント・プロマネ:「どうぞ、どうぞ。」

恵理座部素:「私、SHGの内部資金運用というのをもう少し詳しく聞きたいわ。」

SHG内部資金運用の詳細は、PCUR-LINK便り第5号を参照。

明日春、恵理座部素、餡我の3人も、長い間、インドネシアでSHGの活動をしてきた。それは、SHGへの外部からの資金援助が必ずあり、VVKオバチャンたちのように、自分たちのわずかな貯蓄だけを元手に、いわば自己資金だけで、お金を借りる、返す、を繰り返し、彼女の自助努力を最大限にする、というタイプのもではなかった。

この内部資金運用の仕組みは、すごい！これなら外部の支援がなくても出来る！と、感動したPKPMチーム。

プロジェクトという「お土産」を持たずに村へ行き、村人の持つ力を最大限に引き出すため、「ファシリテーター」としての研修を受けてきた3人は、この具体的なSHGの内部資金運用に感動。早速、餡我は、静かに「ここに彼の名前をいれて、その次、この人の名前を入れて、えっと1度に5,000ルピアの貯蓄で…エーッ、エーッ。」とブツブツつぶやきながら、自分が活動する村での内部資金運用を実践すべく、自分の村の表をつくり始めた。

その後、ソムニードのスタッフが日本での国内での地域づくりの活動や資金調達の困難さ、またインド農村部で実施されている小規模水利開発事業の事前調査の事例も発表した。

続いて、PKPMチームも、明日春が、インドネシアで黄門様から受けているコミュニティ開発(ファシリテーター養成)研修、恵理座部素が、住民主導の開発の事例調査、餡我が、実際、活動している村の事例などを発表し、PKPMのアプローチに対して、ソムニード・スタッフの共感を得た。

さて、PKPMチームおよびソムニード・スタッフのギアは、5速に入ったまま、明日春、恵理座部素、餡我による「ソムニード新人スタッフへの“コミュニティ開発基礎研修”」に突入。教室と村での実習を終えて、ビジャカパトナムに戻ると、今度は、VVKオバチャンたちとの対決！

VVKオバチャンたちは、インドネシアからのお客さんたちに是非、自分のグループにきてほしいと、1日目に、2つのSHGミーティングに彼らを招待し、2日には、事務所でのVVKの活動紹介をした。

この活動紹介のために、彼女たちは、約1週間かけて、活動発表資料を作ったのだった。() ()PCUR-LINK便り読者の皆さんは覚えておられるかもしれないが、2005年12月にJICAの脇田さんと平本さんが視察に来られた際も、VVKのオバチャンたちは、活動発表資料を作ろうとがんばった。しかし、との時は、自分たちの活動を客観的に誰かに伝えるというのは初めてのことで、紙1枚に書いた文章を読むのが精一杯だったのだ。

ところが、今回は。。。。

明日春、恵理座部素、餡我は、この第3国技術交換研修の初日に、ソムニードのスタッフからPCUR-LINK事業の説明を受けたわけだが、実際にオバチャンたちに会うのははじめて。

黄門様：「おまえさんたち、ソムニードのスタッフから PCUR-LINK 事業の活動紹介を受けたが、それが活動のすべてだと思ったら大間違いじゃぞ。スタッフによる活動紹介は、事実ではなく、自分の思いにみや期待がいっぱい混ざっておるかもしれないからな。おまえさんたちの目でちゃんと“事実”を確認するのじゃ。おまえさんたちで、存分に、オバチャンたちに直接、聞いておくれ。ソムニードのスタッフはおまえさんたちの通訳しかしないよ。」

実際に SHG ミーティングに行くと、ソムニードのスタッフは写真を撮ったり、明日春、恵理座部素、館我とオバチャンたちが相互に質問し合っているのを通訳しているのみ。スタッフの誰も解説しないし、補足説明もしなかった。

ある SHG ミーティングでの、オバチャンたちとの明日春の会話をご紹介。

明日春：「僕、あなたのグループのメンバーになれるでしょうか？」

オバチャン1：「ダメよ、ダメ。男は SHG のメンバーになれないわ！」

明日春：「じゃあ僕の妻なら、あなたのグループメンバーになれるでしょうか？」

オバチャン 2：「あなたの妻なら、いいわ。でも、アタシたちのグループのメンバーになる条件には、この地域に住んでいなくちゃいけないのよ。だから明日春さんの家族がここに引っ越してくるっていうなら、いいわよ。あんたの妻をアタシのグループに入れてあげるわ。但し、それでもまだ条件があつて。。。」

とオバチャンたちは、みんなで口々に、毎月の貯蓄の額とか、ローンを借りる際の手続きとか、返済の方法とか、利率とか、帳簿の管理とか、すべて自分たちの言葉で自分の SHG のルールを明日春に説明した。

プロマネはこのこの話を聞いて、2004 年のプロジェクト開始当時の SHG を思い出した。当時は、自分の SHG のルールを、SHG のリーダーも知らない、もちろん読み書きの出来ないメンバーなんか全く知らずにいたのだった。

オバチャン3：「どこでさあ、インドネシアというあなたの国にも SHG ってあるの？」

明日春：「ありますよ、私たちの国では男性も SHG に入っていますよ。」

オバチャン4：「エーッ、それじゃあ、SHG なんて男性の思うままにルールを作ったり、ローンを決めたりして、女性なんか全然、ものごとを決めたり、ミーティングで話したりできないでしょう？」

明日春：「そうですねえ。SHG のミーティングでは、男性しか発言しませんねえ。でも結局、男性はミーティングで、しゃべるだけしゃべっても何も実行しませんからねえ。自分でミーティング中はきちんとすると宣言した毎月の貯蓄とかローンの返済とか、まずやりませんねえ。。。」

オバチャン一同：「ガハハハ、なーんだ。インドのアタシらの夫と同じじゃん。インドネシアもインドも男はどこでもそうなんだねえ。だからアタシら、SHG には男は入れないのよ。ガハハハ。」

明日春：「あ、僕は違いますよ、ほら、ちゃんとやると言ったことはやりますから、あの、その。。。」

オバチャン一同：大爆笑。

ガハハの SHG ミーティングを終えた 3 人は、翌日、プロジェクト事務所にて、VVK の代表メンバーとミーティング。

この日のために模造紙 6 枚もの活動発表資料を作ったオバチャンたち。活動ごとに事前に発表する人を決めていたのに、いざ当日になると PKPM チームを前に大緊張。結局、VVK スタッフのダナラクシュミに全部の発表を押しつけてしまった。ダナラクシュミは、超緊張しながらも、活動発表を無事、全部終えた。

恵理座部素：「皆さんに一つ聞いていいかしら？」

オバチャン 5：「いいですよー。何かしら？」

恵理座部素：「皆さん、どうして VVK を設立したのかしら？」

オバチャン 6：「それはですねえ、SHG はせいぜい 15～20 名のメンバーしかいなくて、人数は限られているけれど、いくつかの SHG が集まれば、それぞれが抱えている問題を一緒に解決することができるし、ビジネスも始めることができでしょう。だから SHG 連合体を結成したのよ。この連合体の名前 VVK (ビシャカ・ワニタ・クランティ) も自分たちでつけたのよ。」

恵理座部素：「ありがとう。よくわかりました。そのほかに、私、VVK の代表、副代表、書記、書記補助、会計という 5 名の代表メンバーの各役割を教えてほしいのですけど。。。」

プロマネ：「そうねえ、じゃあ各代表メンバーで先月の 7 月に自分のした活動を全部挙げてみたらどう？」(プロマネは、誰が何を、誰が何をしていないのか大体検討はついている。。。)

ビジャラクシュミ代表：「えーっと、えーっとすごくたくさん仕事したので覚えてないけど。。団体登録の書類を作ったでしょ、それに団体登録事務所に 4 回は通ったでしょ、それから新しいグループを勧誘するリストを作ったでしょう、7 月の定期ミーティングで議決されたことを各 SHG に配るための資料を VVK スタッフのダナラクシュミと一緒に作ったし、えーっと、それから、それから。」

ラダ書記：「アタシもいっぱい仕事したわ。ビジャラクシュミが言った仕事はほとんど私も一緒にやったわ。」

プロマネ：「じゃあ聞くけど、そのほかの副代表とか、書記補助とか、会計の人は、7 月は何をしたの？」

副代表・書記補助・会計：「何もしてませーん。」

黄門様：「じゃあ、その 3 人は 4 月、5 月、6 月は何をしたのじゃ？」

副代表・書記補助・会計：「……何もしてませーん。」

プロマネ：「一体、誰が VVK スタッフの仕事を監督しているの？」

誰が各 SHG から集めた会費とか月別の VVK への貯蓄とか帳簿をチェックしてるの？

誰が文房具や備品の在庫管理を毎月スタッフがやっているのをチェックしてるの？

誰がプロジェクト事務所の清掃状態をチェックしてるの？

新しく VVK に加盟したグループの研修とかモニターとか誰がチェックしているの？」

ビジャラクシュミ代表：「誰もしてません。アタシ、今の仕事だけで忙しくて一人でそんなに出来ないわー。」

黄門様：「だから、分担するのじゃ、代表メンバーは 5 人もいるのじゃろう？ところで、おまえさんたち、VVK スタッフは最初2人いたが、7 月に 1 人を辞めさせたろう？その理由を 7 月の VVK ミーティングでメンバー全員と共有したのか？」（黄門様は、VVK スタッフが辞めて、その理由を VVK 代表メンバーが他の VVK メンバーに隠していることとお見通し。。。）

ビジャラクシュミ代表：「……してません。」

黄門様：「なぜじゃ？」

VVK 代表メンバー一同：「……」言いたくなさそうな雰囲気が続く。

黄門様：「おまえさんたちなあ、もし万一、VVK スタッフが何かよくないことをして、その人を辞めさせたとしても、それをみんなに内緒にしておけば、同じ問題はまた起こると思わんか？」

それにおまえさんたち代表メンバーが問題を内緒にすればするほど、新しく VVK に入った SHG のメンバーがそれを知ったときに、VVK に対する不信感が強まると思わんか？」

問題を隠そうとするなら、おまえさんたちの大嫌いなその辺の小役人とおまえさんたちがやっていることは同じだと思わんか？」

それが嫌なら、何があったのか事実を明確にして、その上で、どうして問題が起こったのか考え、どうしたら二度と同じ問題が起こらないようにできるか、みんなて話し合ったらどうじゃ。」

ビジャラクシュミ代表：「わかったわ。黄門様の言うとおりよ。みんな聞いて、PKPM チームの人にも聞いていてください。」

VVK では、スタッフを2人雇っていたのですが、そのうちの1人が、VVK メンバー-SHG のモニタリングに出かけたとき、スタッフの立場を利用して、ある SHG のリーダーから 1,000 ルピーの借金をしました。またある SHG から VVK への毎月の貯蓄として預かった金額を自分で使ってしまった、VVK に2ヶ月も納めていませんでした。それから、彼女は 12 月のサリービジネスでサリーを売った金額としてビジネス委員会から預かっていた 3,000 ルピーを VVK に断りもなく、自分で使ってしまった。その金額は今も返済されていません。」

VVK メンバー一同：……沈黙。そんなこと知らなかった。。。

ラダ書記：「どうしてそういうことが起こったかという、2つ理由があります。ひとつは、そのスタッフが個人的にお金にすごく困っていたこと。もうひとつは、アタシたち VVK 代表メンバーの誰もスタッフの仕事を監督していなかったことです。」

ニルマラ会計：「アタシ、これから毎週金曜日に、必ず事務所に出てきて、スタッフが帳簿や領収書を管理しているか、確認するわ。」

オバチャン7：「VVK への毎月の貯蓄も、その金曜日に各 SHG のメンバーが事務所に届けに行ったらどうかしら？」

オバチャン8：「そうねえ、ちょっと面倒だけど、そのときスタッフから領収書もらって、会計の人がチェックしてくれたら確実だね。そーしましょー！」

それから、代表メンバーの誰が何をいつするか、各 SHG は何をするか、延々3時間以上の議論が続けられた。この一連の会議を見ていた PKPM のメンバーがびっくり。

飽我：「インドネシアで、こんな長時間、女性が家を離れて、会議をしているなんてみたことがない。僕たちのところでは、みんなせいぜい2時間くらいで家に帰ってしまうのに。すごい！VVKのメンバーは誰も途中で帰らず、朝11時半から夕方の6時近くまでぶっ通しで会議をしている。しかもメンバー全員が発言している！！」

明日春：「インドネシアでは、こんなに長時間妻が家を空けると、夫が会議の場に怒鳴り込んできたり、次回から妻を外へ出さないようになるのに、ここではそういう問題はないのですか？」

プロマネ：「インドも同じですよ。夫は確かに、妻が長時間、家を空けるといい顔しないし、夫に暴力を受けているVVKのリーダーだっていますよ。だからVVKでは、基本的にはミーティングに参加出来る人が参加しています。夫とか姑が問題で、来ることができないメンバーは、自分のSHGから代わりの人にVVKミーティングに参加してもらい、もしくはしばらくVVKミーティングには来ないようにして、夫の怒りが治まったら、また来るようにしています。それでも毎月のミーティングには15人くらいは必ず出席してますね。私なんか早くミーティング終わって、帰ろーよー、とオバチャンたちに言うのですが、みんな昼ご飯とかお茶の時間とか忘れて話し合ってますね。」

恵理座部素：「うーん、すごいわ。VVKメンバーが自分たちで代表メンバーの役割を決めて、スタッフによる金銭の不祥事を明確にして、ルールを決めるってことのプロセスを見せてもらったわ。それにスタッフがどうやって、VVKオバチャンたちの問題を、彼女たち自身で発見し、彼女たち自身の解決方法を見つけ出してゆくようにファシリテーションをしているのか、わかったわ。」

明日春：「もうひとつすごいなあ、と思ったのは、今日のVVKの活動発表は、ソムニードのスタッフが僕たちに活動を紹介してくれた内容とほとんど全く同じだったことです。

大きな違いは、VVKメンバーの活動発表には、“JICA”とか“PCUR-LINK プロジェクト”とか“ソムニード”という言葉はほとんど出てこなかったことです。ほとんどすべてが、“アタシたちがVVKが、 をした”、“アタシたちVVKに加盟で を決めたと”言っていたことです。それは、JICAでもソムニードの事業でもなく、“アタシたちの活動”だって思っている証拠ですよ。それはすごいことですよ。ソムニードのスタッフだって、“援助してあげてる”という感じはないし、VVKだって“援助してもらってる”という感じはほとんどないですねえ。」

感激してVVKとのミーティングを終え、2週間の技術交換研修の日程もすべて終了し、大雨による空港封鎖も解除され、無事、インドネシアに帰っていった3名。

PKPMチームが去った後、ボソッとラマラジュ(5)がつぶやいた。

ラマラジュ：「僕たち、いつもこんな感じですけど、PKPMチームにとって、何がそんなにすごかったのでしょうか？」

プロマネ：「うーん、何がすごかったんだろうねえ。フツーなのにねえ。」

黄門様：「おまえさんたちは、だからわかっておらんのだよ。もっともおまえさんたちは、ファシリテーションをしておるのに、本人も気づかなければ、VVKオバチャンたちも気づかないんだわな。」

だからいいのかもしれないなあ。逆にそれは究極のファシリテーションかもしれないなあ。でもまだまだ修行が足りんことは確かじゃな。」

この後、8月末には岐阜県青少年派遣で、11名がVVKの活動を視察に訪れた。しかも前号で、ご紹介したVVK団体登録事務所からもようやく担当の役人がVVKの事務所にやってきて、書類等を確認する予定になっている。

千客万来の8月のVVK。

団体登録の手続きを初めて2ヶ月がすぎたが、未だ登録事務所の役人は難癖をつけてきている。しかし、なんとか登録事務所は、書面で「VVK事務所に担当官が訪れ、書類等の確認ができ次第、本登録を認めることになる」との通知をVVKに送ってきた。一步前進、団体登録！

団体登録手続きは、VVKオバちゃんたちだけで行われ、週に1度の登録事務所通いは続いている。この登録が終われば、正式にVVKは組織としてインドの法律で認められ、念願の女性の組合による銀行業もスタートできる！オバちゃんたちの登録をめぐる戦いは続く。

<注意書き>

- (1)水戸黄門、またの名を和田信明。ソムニード代表理事。
- (2)明日春(アスハール)さん、恵理座部素(エリザベス)さんは、PKPMのローカル専門家、餡我(アンガ)さんは、PKPMのマスター・ファシリテーター。
- (3)プロジェクト・マネージャーの略。この便りの筆者。
- (4)アシスタント・プロマネ、またの名を前川香子。この日のプレゼンのために1週間かけてPCUR-LINK活動紹介資料を作成。前日は、緊張のあまり普段よりぐっすり眠ったというソムニード期待のルーキー。
- (5)ラマラジュ:PCUR-LINK事業担当のソムニード・スタッフ。ラマラジュは、プロマネの右腕・右脳。アシスタント・プロマネがプロマネの左腕・左脳。2人に預けっぱなしプロマネの腕や脳みそは使われないまま。。。
